

平成20年度市民を対象にした文学講座 「梶井基次郎の全小説を読む」

※3/13の回は講師都合により休講です。



場 所 福岡女子大学 セミナー室
講 師 石井和夫 (福岡女子大学文学部教授)
時 間 14:30～16:00
受 講 料 無 料 ※テキスト『ザ基次郎 梶井基次郎全一冊』第三書館発行
税込1260円 (ISBN: 4-8074-8510-5)を各自ご用意下さい。



概要 同時代の太宰治、堀辰雄との関係等を視野に入れながら、梶井基次郎の習作を含む全小説を読み、吉行淳之介や開高健など後代の作家に影を落としている、梶井の文学の特質を検証する。

日程表		
第1回	4月11日	1922(大正11)年 詩(習作) 小さき良心(習作) 不幸(習作 その二 大正11稿・習作 その三 大正12稿)
第2回	4月25日	1923(大正12)年 圭吉(「真素人」大正12・5 習作 筆名 瀬山極) 卑劫(怯)者(習作 大正12・1・24稿) 大蒜(習作 筆名 瀬山極)
第3回	5月9日	彷徨(習作) 裸像を盗む男(習作) 鼠(習作) カツフェ・ラーヴェン(習作) 
第4回	6月13日	母親(習作) 矛盾のやうな真実(習作 大正12・5・28稿) 瀬戸内海の夜(習作) 河岸(習作)
第5回	6月27日	「檸檬」を挿話とする断片(習作) 1924(大正13)年 太郎と街(習作) 瀬山の話(冬稿)
第6回	7月11日	帰宅前後(習作) 夕凧橋の狸(習作) 貧しい生活より(習作) 犬を売る店(習作) 攀ち登る男(習作)
第7回	7月25日	1925(大正14)年 檸檬(青空 1月創刊号) 大正13・10 稿) 城のある町にて(青空 2 大正13・11稿)
第8回	8月8日	泥濘(青空 7 大正14・6・16稿) 路上(青空 10 大正14・10・7稿) 
第9回	8月22日	椽の花(青空 11 大正14・10・26稿) 雪の日(習作) 汽車(習作) 家(「凧」習作)
第10回	9月12日	1926(大正15)年 過古(青空1 大正14・12稿) 雪後(青空 6 大正15・5・15稿)
第11回	9月26日	ある心の風景(青空 8 大正15・7・21稿) Kの昇天(青空 10 大正15・9・18稿)
第12回	10月10日	1927(昭和2)年 冬の日(青空 2,4 大正15・11～昭和2・3稿) 栗鼠は籠にはいつてみる(遺稿 昭和2・10稿 推定)
第13回	11月14日	闇への書(昭和2 秋冬稿 推定) 闇の書(遺稿 昭和2・12稿 推定) 
第14回	11月28日	1928(大正3)年 蒼穹(文藝都市 3 昭和3・1稿) 笥の話(近代風景 4 昭和3・1稿)
第15回	12月12日	器乐的幻覚(近代風景 5 昭和3・1稿) 冬の蠅(創作月刊 5 昭和3・2稿) 
第16回	12月26日	ある崖上の感情(文藝都市 7 昭和3・5稿) 奇妙な手品師(遺稿 昭和3・5)
第17回	1月9日	桜の樹の下には(詩と詩論 第2冊 12 昭和3・10稿) 雲(遺稿 仮題 昭和3稿 推定) 1929(昭和4)年 猫(遺稿 仮題 題なし 昭和4・2以降の稿) 1930(昭和5)年 愛撫(詩・現実 第1冊 6 昭和5・5稿)
第18回	1月23日	闇の絵巻(詩・現実 第2冊 9 昭和5・8以降の稿) 琴を持った乞食と舞踏人形(遺稿 昭和5稿)
第19回	2月13日	海(遺稿 仮題 昭和5稿) 薬(遺稿) 交尾(遺稿 仮題 昭和5・12稿 交尾 その三)
第20回	2月27日	1931(昭和6)年 交尾(作品 1 昭和5・12稿) 雲(遺稿 昭和6稿)
第21回	3月13日	藪熊亭(遺稿—昭和6・11稿)—1932(昭和7)年—のんきな患者(中央公論—1—昭和6・12稿)—中止となりました。H21/02/13
第22回	3月27日	温泉(遺稿 仮題 昭和5稿 その一) 温泉(遺稿 昭和6・12 その二) 温泉(遺稿 昭和7・1稿 その三)